

大川市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成29年度実績の検証結果について

【基本目標 I】

基本目標	基本的方向
I. 大川における安定した雇用を創出する	①インテリアのまち大川の活性化 ・地域経済の活性化を図るため、国内外への積極的なPR活動や新しい販路の開拓などを支援し、インテリア産業の振興を推進する。 ・地場企業の経営基盤の強化や地場産品の高付加価値化、創業支援などにより雇用の創出を図る。

事業内容
<p>■1. インテリア産業の経営支援と人材育成の促進 ※詳しくは、地方創生推進交付金事業の検証結果を参照                      ・大川木工まつりや家具展示会の開催、大川職人塾の開校、大川の技術をPRし新しい市場を開拓するための事業に対し、実施主体である大川家具工業会や大川インテリア振興センター等へ補助を行った。</p> <p>■2. 創業者支援と多様な就業環境の創出                      ・新規創業を促進するための創業スクールや経営革新スクールの開校に対し、小規模事業者に対する経営改善事業等の経費に対し、実施主体である大川商工会議所へ補助を行った。                      新規創業スクール出席者・・・22名、経営革新スクール出席者・・・4名                      ・新規創業者に対し、店舗の工事費や家賃の補助を行った。                      出展補助件数・・・4件、家賃補助件数・・・8件</p> <p>■3. 地域商業の支援                      商工会議所が発行するプレミアム商品券のプレミアム分の一部を負担した。販売数・・・20,000セット                      ふるさと納税については、イベントや雑誌等への広告掲載によりPRを行った。</p> <p>■4. 大川ブランドの創造(木のきもち推進事業) ※詳しくは、地方創生推進交付金事業の検証結果を参照                      ・木のきもちブランドの製品開発等に対し、実施主体である大川商工会議所へ補助を行った。                      新規商品・・・8品</p> <p>■5. 大川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組み                      ・事業の進捗状況を調査し、検証を実施。</p>

KPIの達成状況
・インテリア関連産業の生産高及び小売業年間商品販売額については、国の統計に基づいているため、統計の実施時期や結果公表時期の関係で、現時点では、把握できていない。 ・上記以外については、概ね順調に推移している。

課題
・プレミアム商品券については、その効果を検証することが必要である。 ・公表時期等の関係で把握が遅れるKPIについて、見直しが必要である。

今後の方針
・創業者支援については、創業後に経営革新計画の申請に移行する仕組みを作る。 ・プレミアム商品券については、近隣自治体の動向を見ながら、その効果などを検証し、事業継続の判断を行いたい。 ・ふるさと納税については、引き続きイベント出展やPR広告などにより、大川市及び大川市ふるさと納税の認知度を高めていきたい。 ・見直しが必要なKPIについては、引き続き検討するとともに、参加者数など数値化できる実績値にて補足を行う。

KPI	策定時の現況値 ⇒H31年度目標値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
インテリア関連産業の生産高	366億円(H25) ⇒500億円	-	384	工業統計調査 結果公表待ち		
年間創業件数	5件 ⇒10件	3	7	7		
小売業年間商品販売額	387億円 ⇒500億円	-	507	商業統計調査 実施なし		
商品開発数(H27年度からの累積)	0商品 ⇒20商品	0	7	15		
PDCAサイクルの確立、重要業績評価指標(KPI)で検証し、改善	仕組みなし ⇒仕組み実践	仕組みなし	仕組み実践	仕組み実践		

検証委員会からの意見等
・商工会議所などの団体で行われている事業については、会員以外の方にも周知徹底するために、市と団体間で情報をリンクさせることが重要である。 ・働く場としての魅力をPRしていく事業、大川で働きたいと思ってもらえるような取組みも必要。

基本目標	基本的方向	
I. 大川における安定した雇用を創出する	➔	<b>②職業として選択できる魅力ある農水産業の実現</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な力強い農水産業を実現するため、中核的な担い手等の育成・確保や優れた生産性を可能とする環境整備を推進する。</li> <li>・競争力のある産地づくりや6次産業化による販売力の強化などに取り組み、魅力ある農水産業の実現を図る。</li> </ul>

事業内容
<p><b>■1. 農水産物のブランド化の支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大川市、大木町、久留米市三潁町・城島町、JA、JA全農ふくれん、生産者部会で構成された「三潁大城地区苺連絡協議会」において、イチゴの生産・出荷・販売方法の改善にむけた活動を行った。</li> <li>・市内4漁協で構成された「大川市漁業協同組合連絡協議会」において海苔のPR活動が実施されており、木の香マラソン大会等においてPR用の海苔を提供した。</li> <li>・新たな農作物の生産と名産化を目的として、激辛「唐辛子」について、契約栽培の取組支援や商品化、PR活動を行った。激辛唐辛子生産者数・・・10名</li> </ul> <p><b>■2. 担い手・経営力の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大川市集落営農組織連絡協議会が行う、経営基盤の強化等に向けた先進地視察等の活動に対し、補助を行った。</li> <li>・農作業の集約化や政策コスト低減等に取り組む水田農業の担い手を対象として、高性能農業機械の導入に支援を行った。補助先：農事組合法人3団体</li> </ul> <p><b>■3. 青年新規就農者の育成・確保に向けた支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青年の就農意欲の喚起と就農後の定着を目的として、就農開始から最長5年間の者に対し、資金を給付した(国交付金事業・農業次世代人材投資事業)。29年度からの新規受給者・・・1名</li> </ul> <p><b>■4. 漁業振興対策に対する支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・のり加工排水による異臭・塩分被害対策として大川市漁協連絡協議会が行う、排水管を敷設しポンプ圧送により河口周辺まで排水する事業に対し、補助を行った。</li> </ul>

KPIの達成状況
概ね順調に推移している。

課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな農作物として取り組んでいる激辛「唐辛子」については、栽培技術の早期確立が課題である。</li> <li>・集落営農の法人化組織については、全体的に、法人経営の強化・改善に向けた動きが鈍い。</li> <li>・農業次世代人材投資事業の要件が毎年厳しくなっている。</li> </ul>

今後の方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・激辛「唐辛子」については、認知度向上のため、苗の無償配布、唐辛子を使った料理、レシピコンテストを新たに計画している。</li> <li>・集落営農の法人化については、法人経営が早く軌道に乗るよう、関係機関と連携を図りながらサポートしていく。</li> <li>・青年新規就農者の育成・確保に向けた支援については、就農希望者の意向を把握すると共に、毎年開催している人・農地プラン地区別検討会議等において情報提供や制度の周知徹底を図る。</li> </ul>

KPI	策定時の現況値 ⇒H31年度目標値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
ブランド商品(あまおう、福岡のり)の生産高	30.3億円 ⇒32.4億円	33.4	37.5	36.9		
集落営農の法人化数	6組織 ⇒20組織	7	20	20		
新規認定就農者数	6人 ⇒18人	5	9	13		
漁港環境整備進捗率	70% ⇒100%	81.8	86.3	88.6		

検証委員会からの意見等
・補助金を交付する事業については、補助を行った効果を十分に検討すること。